SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

静岡県地学会創立10周年におもう

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-09-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 桐谷, 文雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025734

静岡地学 第27号（1974）

静岡県地学会創立10周年におもう

桐 谷 文 雄*

県地学会が創立されてから早いもので既に 10 年という年月が過ぎ去った。昭和 39 年初代会長に故佐々倉航三先生の御就任を願って先生を中心として県地学会の活動が開始されたが、その当時の会員数は 13 名であった。

しかしその後年々会員数は増加し現在では300 名を越す状況で、その間県教育委員会や理科教育研究会などの絶大な御支援の下に一応県内に定着した形となっている。とかく学会活動というものは会員の会費が主要財源であり、その活動が経済的に制限されることが多いのであるが、そのわりには本会の活動は年 2 ～ 3 回の機関誌「静岡地学」の発行、毎年春の総会、秋の年会、その他に年間数回の見学会、地学実習旅行、研修会等を実施してきており、会の活動としてはまづまづ満足すべきものがあったと考えている。更に 10 周年記念事業として東海自然歩道の地質案内書の出版が計画されている。これも今日に至るまでの会員諸氏の熱心な御努力、御協力の賜であると、この機会に深く感謝の意を表す次第である。

地学会の主たる目的は今更申上げるまでもなく、環境科学の関連部門であると同時にその基礎部門である地学の県下における振興、会員相互の研究琢磨、小・中・高の学生諸君の深い地学への関心の高揚などにあることは云うまでもない。このために創立以来地学会としても大きな努力が払われてきたのは勿論であるが，今後もこの10年の実績を土台として更に一層の力をかたむけて行かなければならない。この意味においても静大理学部に早い機会に地学科又は環境地学科の設立をのぞむものである。

更に地学会および会員諸君におかれても、最近とみに声を大にして叫ばれている将来の東海大地震およびその災害に対しても、一層の理解と深い関心を持つことが必要である。そのはしりとも云うべき先般の伊豆沖地震に際して会員である静大地学の教官諸氏と一部学生諸君がいち早く現地に赴いて学術的調査に従事されたことは誠に機宜を得た行動であったと思う。地震発生機構の研究はもとより大切なことであるが、より一層大切なことは地震動による災害防止のための研究であり、その際問題となるのは震災地域の地形、地質がどうであったかということの一語につきると云っても産支えない。特に東海大地震の震源がプレートテクトニックスから考えて主として海底深くにあることが予想されるので静岡県の海岸地域の防災上からの地形と地質のきめ細かい研究解明が必然的なものとなってくる。本県については今日までにしばしば専門家による防災上の研究発表も行われてきており或程度の資料はそろっているといえる。

いつも申上げるように県地学会の会員諸氏もそれぞれが自分の在住する地域における地質調査機関であるとの自信を持って純地質学の立場から一歩進めて地質学の応用、又は実用化としての自然災害防止或は軽減のための環境地学並びに災害地学についても関心を深めることを希望する次第である。

＊ 本会々長 日本パブリックエンジニアリング㈱